

1巻1号

NMUN・JAPAN
KOBE 2016

2016年7月20日発行

THE NMUN KOBE TIMES



Kobe City University of Foreign Studies

神戸で11月開催の世界大会に向け 本学で模擬国連演習授業始まる

こんにちは！私たちは神戸市外国語大学の学生記者です。私たちは11月20日～26日に神戸で開催される模擬国連世界大会について取材していきます。

1巻1号を担当した記者

加茂隆大 大石紗英
塩谷広子 森田帆風
白石汐音 東前彩美
上野稜 山崎智美



2016年11月20日から同月26日にかけて神戸で開催されるNMUN(模擬国連世界大会)に向けて、会議に参加する学生が7月9日、準備を始めた。この世界大会は、本学の主催である。本学の学生30人(うち23人は代表役、7人は記者)を含む33人がこの日開催された「模擬国連世界大会演習」の授業に参加した。

初回の授業は模擬国連スタイルの点呼から始まった。これは、担当の国と所属する国連機関の名前で呼ばれた参加者が、プラカードを挙げて「present」と言うスタイルのことである。その後、初対面の会議参加者は廊下へ出て、自己紹介を兼ねて自分の担当国と所属機関を紹介し合った。
(次頁に続く)



本号の日本語訳は、本学ICCの後期科目「翻訳」授業の一環で、北岡直樹、時末光、那須彩乃、阿部望美)が担当した。

(前頁から続く)



ローリー・ゼネック西出教授

次ぐ講義の中でローリー・ゼネック西出教授は、世界平和と安全保障、そして人権に資するために 1945 年に設立され、今では 193 カ国から成る国際連合(UN)がどのように機能しているのかを説明した。ゼネック西出教授は、日本での模擬国連がシミュレーションする総会(GA)と経済社会理事会(ECOSOC)、国連難民高等弁務官(UHCR)、安全保障理事会(SC)の四つの機関の活動について詳しく話した。「皆さんは国際連合について勉強してきました。自分の担当する委員会や国際連合の一部について知る必要があるので、模擬国連を通して、皆さんは実際にそれを経験するのです」と、ゼネック西出教授は述べた。

英米学科 4 年生で今回副事務総長を務める田中秀和さんは、「ポジション・ペーパー」について話した。ポジション・ペーパーとは、会議での議題についてそれぞれの国の立場を明らかにしたもので、開会前に各機関の各国代表より議長に提出される。

代表となる学生たちは 4~6 人のグループになって、ポジション・ペーパーが普段の書き物とどう異なるか議論した。田中さんはポジション・ペーパーでは主語は「私」や「私たち」ではなく、国となること、また国際条約や機関、そして国の政策などについても言及されることを指摘した。代表たちは国際政治の場で使われる言葉にも通じておく必要があるという。



田中 秀和

国際関係学科4年生で、この会議の事務総長である谷幸穂さんは、NMUN の進み方について説明した。彼女によると、会議には公式のディベートと非公式のディベートの二つがある。公式のディベートでは、代表者が全員の前でスピーチをし、会議のあらましを決める。非公式のものはコーカスとも呼ばれ、ここでは、代表たちが集まって書類を推敲したり、提出された草案に対しての修正案を考えたりする。

谷さんはまた、ポジション・ペーパーの書き方についても説明した。谷さんによると、統計的、科学的事実、経済的制約、政治的理由、そして文化的、地域的背景などに基づいて書くことが大切である。インターネットで政府機関のリソースを参照することがお勧めだという。



谷 幸穂

安全保障理事会と総会、UNHCR、ECOSOC のそれぞれ議長である橋本智美さん、吉松紗恵子さん、エミリー・ジョンソンさん、植田奈菜子さんたち 4 人は自己紹介をした後、それぞれの機構の構造や役割、権限について簡単に説明した。4 人は国際関係学科の 3 年生と 4 年生である。

大使に任命された学生は、その国を代表する意見を言うことが求められるが、これは個人的な意見ではない。このセッションの後で、ゼネック西出教授は参加者に、国を代表するとはどういうことか、と問いかけた。これは大使であることで、個人は国連のために働くのではない、大使は自国のために存在する政府を代表する人間であり、自分の国のために尽くすことが求められているのだ、と教授は続け、一国の大使として真剣に取り組むよう学生たちを激励した。

模擬国連(MUN)は、実際の国連会議のシミュレーションを通して、自発的な学習機会を学生に提供するために企画された。代表者は割り当てられた国の大使の役割を担い、他国の代表者と討論や交渉を行い、意見の一致や問題解決を図る。これは、国際連盟の模擬立法議会として 1927 年にハーバード大学によって初めて導入された。このプログラムは国際連合の創設後の 1946 年以来、現在の形式を採用している。1968 年には、会議を運営するために非営利教育機関である全米学生会議連盟(NCCA)が設立された。



左から 橋本智美、吉松紗恵子、エミリー・ジョンソン、植田奈菜子

毎年春にニューヨークで模擬国連世界大会(NMUN)が開催され、最終日は国際連合本部を会場に行われる。この大会には世界各国から毎年約 6000 人が参加する。海外での最初の世界大会は 2008 年秋に中国で開催され、年次開催となった 2013 年までは隔年で他の国でも開催された。本学は創立 70 周年を記念する 2016 年に模擬国連世界大会を主催者として誘致することに成功した。

神戸で今秋開催される大会には 350 人から 400 人程の学生大使が世界中から参加する見込みである。国連フォーラムと開会式典、そして 11 月 23 日の最初の会議は本学で、その後の会議は神戸国際会議場で行われる。

本学の学生はオーストラリアとニュージーランド、ガーナ、セルビア、ソマリア、ウガンダの代表を務める。今夏、大使は各委員会における二つの議題についてポジション・ペーパーを書く。議題は、NCCA によって 8 月 1 日に公表される予定である。

四つの委員会のバックグラウンド・ガイドは、現在各委員会の副議長によって執筆されている。各委員会における議題は会議のはじめに、代表による投票によって二つの中から一つが選ばれる。参加者たちは 7 月 9 日の授業で、次回 9 月 24 日の授業に先立ち、9 月 4 日までにポジション・ペーパーの第一稿を提出することを要請された。



～豆知識～

2016 年 7 月、日本は 6 年ぶりに安全保障理事会の議長に就任した。議長職には安全保障理事会のメンバー国 15 カ国中 1 カ国が任命される。日本は 2016 年に非常任理事国に任命されている。

この日の授業には、本学の学生を含む大学コンソーシアムひょうご神戸と全国外大連合の代表に加え、日本模擬国連 (JMUN) の代表である本学の学生 2 人が参加した。

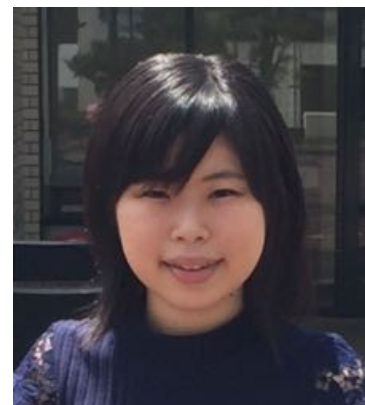
ロシア学科 3 年生で JMUN 神戸支部のメンバーである古宮あゆみさんは学生記者の取材に対し、ほかの代表との握手や英語のみによるディスカッションなど、NMUN の雰囲気を感じることができてうれしかった、と語った。古宮さんはまた、MUN に参加することは国際問題を学ぶ上でとても良い方法だと述べた。

同じくロシア学科 3 年生で JMUN 神戸支部のメンバーの梅谷咲貴子さんは、模擬国連に参加することで、たくさんの友達を作ったり、英語を上達させたいと言う。ほかの MUN に参加した経験から、最も大切なことは英語と日本語でのコミュニケーション能力だと思ったと梅谷さんは話した。

(この記事は加茂隆大、大石紗英、塩谷広子、白石汐音、東前彩美が担当した。)

もっとガーナを知りたくて

本学英米学科 3 年生の高東奈央さんは、この会議にガーナ代表として参加する。「ガーナについてはカカオの貿易以外のことは見当もつかない」と彼女は言うが、悲観しているわけではない。というのも、ガーナ共和国に興味があるからである。この国についてもっと知りたいと思っているのだ。「NMUN に参加している人たちは専門的なので、彼らから様々なものの考え方が学べるし、お互いに影響を与えることもあると思う。パートナーと協力して会議に備えたい。」高東さんが模擬国連に参加するのは初めてではない。最近行われた日本大学模擬国連大会 (JUEMUN) では、アンゴラ共和国の代表だった。(上野稜、森田帆風)



会議初参加の仲間の役に立ちたい

本学 2 年生である前村大地さんは、今年の春にニューヨークで NMUN を経験した代表として、初めて模擬国連に参加する学生を助けたいと話す。前村さんは国際問題に関心があり、NMUN でいろいろな角度から国際問題について討論することには大きな魅力があるという。ニューヨークでの NMUN ではジャマイカを担当したが、神戸での会議ではセルビア共和国の代表になる。ロシア語を専攻しているので、同じスラブ言語を使うセルビアに多少の共通点を見出し、セルビア担当になりたかったという。(山崎智美)